

オリック通信 No 6

知って得する洗濯術

【ドライクリーニングの由来】

「ドライクリーニング」は、すっかり私たちの生活になじんでいますが一体どのようなものなのでしょう

ドライクリーニングは「水洗い（ウェットクリーニング）」に対し、水のかわりに溶剤を使用するクリーニング方法です。ドライクリーニング溶剤は石油系と塩素系に大きく分類されますが、現在もっとも多く使用されているのは石油系の溶剤です。このような溶剤の発見は19世紀のフランスにさかのぼります。

メイドが運んできたアルコールランプの蒸留油をテーブルクロスの上にこぼしてしまいました。すると、そのテーブルクロスに付いていた油汚れが、たちまちキレイに落ちたのです。当時はあきらめられていた油性の汚れが、簡単に落とせたことは画期的な発見でした。これをきっかけに溶剤を使用して洗う方法が取り入れられたといわれています。その後、世界各国で溶剤や洗剤、繊維、汚れのメカニズムなどの研究が進められてきたのです。



○×
油性汚れ
水性汚れ



溶剤を使用したクリーニングと水洗いの大きな違いは、水で洗うと収縮したり型崩れしたりしやすい繊維に関しても、まったく悪影響を及ぼさないことです。ウールのような動物性繊維や、繭から紡いだシルク、水洗いすると簡単に破れてしまうティッシュペーパーですら、洗っても原型や風合いを損なうことはありません。また、水洗いで簡単に落とすことができない皮脂による汚れや機械油の汚れ、空気中のホコリ、さらには排気ガスの汚れ等も容易に落とすことができます。その反面、血液や汗、飲み物のシミのような水溶性の汚れを落とすには、あまり適していません。

そのような場合、私どもは繊維やシミの性質を調べ、特殊な技術を使って溶剤では落ちなかった水溶性のシミを取り除いたり、時には水洗いをしたりもします。現在のドライクリーニングは、様々な技術やテクニックが詰まった歴史あるものといえるでしょう。